



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No.02
令和3年6月28日

学校だより

令和3年度 附属幼稚園・義務教育学校研究集会 開催

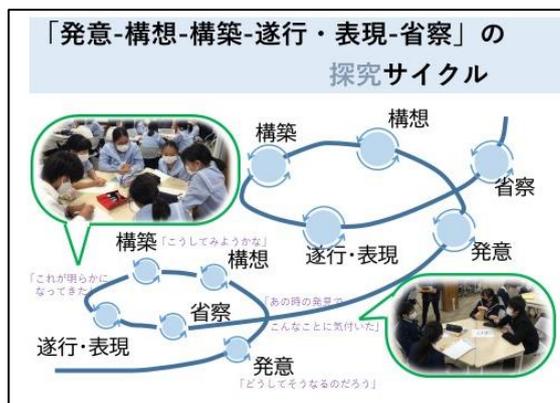
義務教育学校後期課程 副校長 吉田 千春

6月5日(土)に、開催した令和3年度教育研究集会は、コロナ禍であるため、オンラインでの研究集会となりました。今回の研究集会は、オンライン開催ということの他に「幼稚園と義務教育学校との共催」であること、「事前に実践報告に係る映像を視聴しての語り合いの場」となること、そして「子供たちが参加する」という3つの”初めて”が重なった研究集会でした。

短期間での広報活動でしたが、県内外から約200名の参加をいただき、本校の研究に対する関心の高さを実感しました。協働探究の要となる社会創生プロジェクトはもちろんのこと、各教科の授業デザインについて、実際のところ、子供たちはどのように思っているのだろうか、生の言葉で聞いてみたい。参加者の先生方の一番の興味はそこかもしれないと思いました。子供たちについては、前期課程、後期課程合わせて、約80名の参加がありました。授業に携わる大人たちと話したい、自分の思いを伝えたいという子供たちが、これほど多くいることに、さらに驚きました。Zoomの接続について、ご家庭でご協力いただき本当にありがとうございました。感謝いたします。

子供たちは、参加者からの質問に、その場で考え、ただただしくも、熱く、丁寧に答えてくれました。振り返りには、「用意されていた質問とは全く違う質問がきて焦ったが、急な質問だったからこそ、自分の素直な気持ちを話すことができた(後期課程生徒)」「授業のどこが楽しかったのか、難しかったのかとか、自分は何がしたかったのかを振り返って、考え方も変わって楽しかった。(前期課程児童)」「前期課程低学年の人の社会創生プロジェクト(以下社創)に対する思いを初めて聞いて、後期課程と同じような思いをもって内容の濃い活動をしていてすごい。このような学びを小さい頃から楽しみながら積み重ねて、次に生かしていくことが大切(後期課程生徒)」などの感想を持った子がおり、子供たちにとっても実りある場となったことがうかがえました。

シンポジウムでは、社創と教科の学びのおもしろさ、それぞれの学びにおける教師の役割、子供たちと教師がどのように学びをデザインしていくのかな



どについて、子供たちの生の声を交えながら考えました。

〈みんなで考えることの楽しさ〉

- ・自分とは違う意見でもそれをちゃんと受け止めて考えていくところが楽しかった。(前期課程 児童)
- ・話し合いで合意形成を図っていくときに、消去法ではなくて、みんなで考えながらもっと良いものを組み合わせて考えるところが楽しみ。(後期課程生徒)

〈Actionを起こす 社会に出ることについて〉

- ・やるのは初めは大変だけど、できたらうれしい。(前期課程児童)
- ・何が楽しいか考えたことなかったけれど、実際に考えたことを校外に出てすることがあつてから、すごいことしているんだな、社会についてどういうことをしていけばいいか、みたいなことを考えることができた。(後期課程生徒)

上記のような子供たちからの意見を受けて、本校統括研究主任の森川教諭は、協働探究の授業をデザインするなかで、社創と教科それぞれのなかで学ぶ内容や学び方が行ったり来たりすることが随所にあるし、そこが本校の大事にしているところであり、これからの教育にとっても大切な視点であると述べました。

シンポジストである学習院大学教授 秋田喜代美先生、東京大学大学院教授 藤村宣之先生からいただいた御高評の一部を紹介します。

○社創や教科の授業を通じて子供たちが学びを深めるためには、いろいろな考え方ができる問いの設定、自分の考えや思いを自分の言葉で理由も含めて表現すること、友達や周囲の人と考えや思いを共有し、共通点や違いを考えてみるのが大切である。

○みんなが幸せになるという価値(Well Being)を、子供たちは前期課程の1年次から探究している。教科と社創の関係が、たし算ではなくかけ算の効果をもたらすために、探究のプロセスや子供に培う資質・能力など、学校全体で共有するものとして何が必要かをさらに研究してほしい。

○教師は、子供たちの学びに干渉しすぎず、しかし、しっかりとコメントし、必要な時に立て

直すという探究的な学びをデザインしている。子供たちの進んでいく方向性、深めていく方向性を理解し、子供の自律的な学びの支援をしていく新しい教師の役割が見えてきた。



本校は、義務教育学校になった平成29年より研究テーマ「自律的な学びへのイノベーション 探究するコミュニティを培う」を掲げ、各教科と新領域「社会創生プロジェクト」の両輪でプロジェクト型学習を発展的に積み重ね、9年間を見通した協働探究カリキュラムの開発に取り組んできました。その過程で、本学附属幼稚園・年長児の「遊び」活動が、自律的な学びにつながる「社会創生プロジェクト」の基盤となることも確認しました。

今回の研究集会を通して、今後も子供の成長発達の構造を踏まえ、幼稚園と義務教育学校をつなぐ12年間の学びを貫く教育課程の開発に向けて連携を深め、子供とともに創造する学びの在り方について考えていきたいと気持ちを新たにしました。



研究集会後 参加生徒とのふりかえり